

3 地域経済の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気はやや弱含んでいる。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに減少している。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は厳しさを増している。

前回調査からの主要変更点

	前回(平成15年2月)	今回(平成15年5月)	
景況判断	下げ止まっている	やや弱含んでいる	
鉱工業生産	おおむね横ばい	緩やかに減少	
住宅建設	おおむね横ばい	増加	
雇用情勢	依然として厳しい	厳しさを増している	

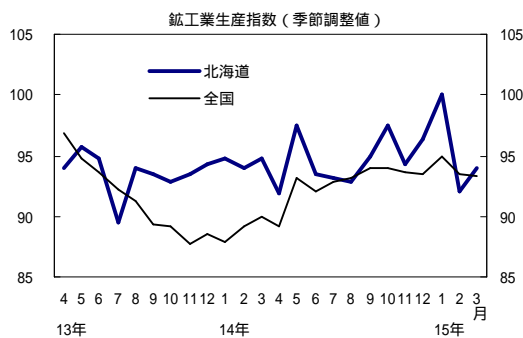
1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産は前年を上回り、水産業は前年を下回っている。

生乳生産は、乳製品向けが減少しているものの、飲用牛乳等向けが増加したことから、前年を2.3%上回っている。水産業(主要9港主要品目)は、スケトウダラが増加したものの、カレイ類やタラが減少し、水揚量は前年を下回っている。

(2) 鉱工業生産は緩やかに減少している。

食料品・たばこは、ビールの生産増があったが、全体では減少している。紙・パルプは、輸出に頭打ち感がみられ、やや減少している。窯業・土石は、公共投資や民間投資の縮小傾向が続き、低水準で推移している。金属製品は、橋りょうの落ち込みがあったが、全体ではおおむね横ばいとなっている。電気機械は、携帯電話関連や自動車向け電子部品の需要により堅調だが、前期の反動で減少している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷		在庫	
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期		
食料品・たばこ	24.2	0.8	2.5	5.4	7.7		
紙・パルプ	13.1	3.1	1.4	1.1	3.9		
窯業・土石	10.8	4.3	1.3	2.0	11.4		
金属製品	8.4	10.4	0.6	1.0	7.3		
電気機械	8.0	20.6	2.5	0.4	10.8		
鉱工業	100.0	2.5	0.6	0.2	0.1		

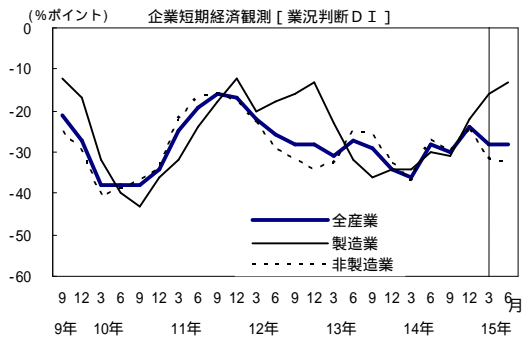
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 1~3月期は速報値。

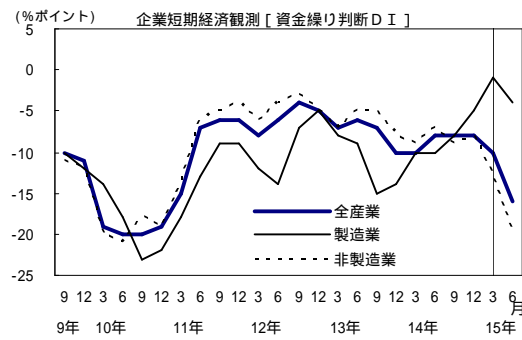
(備考) 1. 平成15年3月の北海道は速報値。

2. 北海道は平成7年基準(左目盛)、全国は平成12年基準(右目盛)。

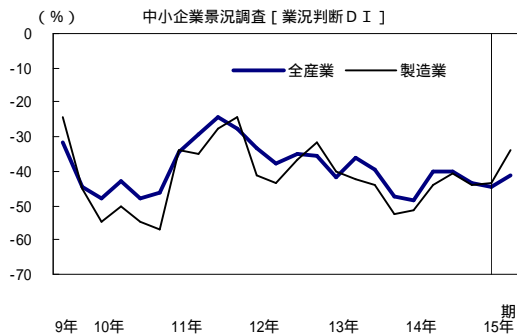
(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅が、それぞれ拡大している。
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。15年6月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年6月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。15年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (4月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「住宅関連、建設関連がやや上向き傾向となっているが、依然として不安定であり、全体としては変わらない(司法書士)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

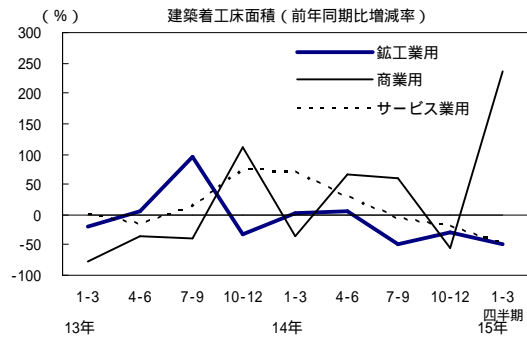
(4) 設備投資の14年度実績見込みは13年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (3月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	14年度実績見込み	15年度計画
全産業	9.0 (4.9)	22.0
製造業	3.0 (5.0)	38.4
非製造業	11.9 (9.6)	13.2

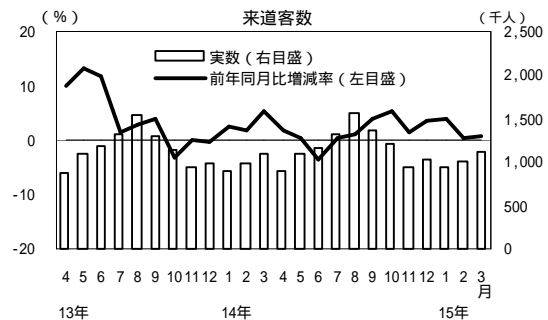
(備考)()は前回(12月)調査比修正率。電気・ガスを除く。



(5) 観光は持ち直している。

1～3月期の来道客数は、さっぽろ雪まつりやスキー場で減少しているが、全体では1.7%増となり9か月連続で前年を上回っている。

足元では、SARS(新型肺炎)の影響により外国人観光客が減少している。



(備考)北海道観光連盟調べ。

2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

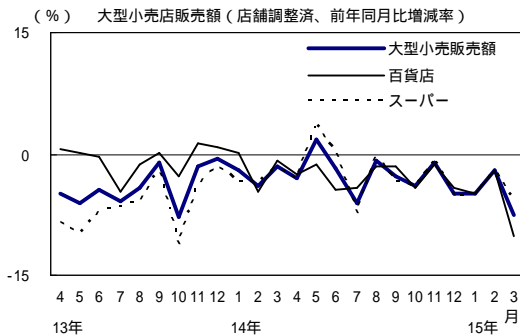
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、1月は冬物バーゲンや衣料品が伸び悩んだ。2月は前年に売場を縮小した一部の店舗において、その反動から増加が見られた。3月は札幌駅の大型複合商業施設が開業したこともあり、前年同月比の全店ベースで1.0%増加している。しかし、既存店ベースでは10.1%と大きく減少している。

スーパーは、野菜市況高やBSE反動で食料品は堅調に推移したが、全般的な単価下落や衣料品の伸び悩みなどの結果、前年を下回っている。

景気ウォッチャー調査(4月調査)[家計動向関連DI(現状判断)]

「話題商品や健康商品といった付加価値のある商品は高価格でも売れているが、買替商品の単価が落ちていることに加えて、OA商品が相変わらず苦戦している(家電量販店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

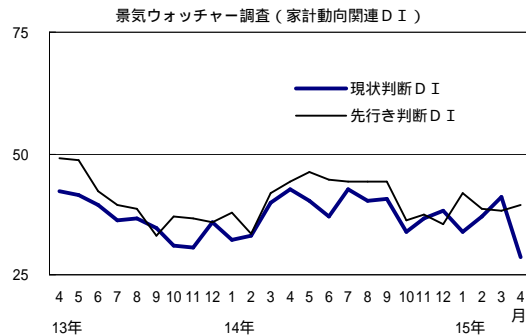
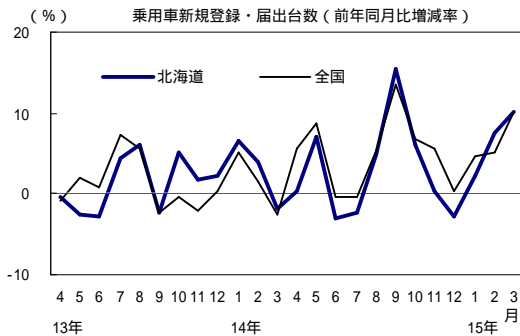


(前年同期比増減率、単位：%)

	14年4-6月	7-9月	10-12月	15年1-3月
大型小売店	1.0	3.3	3.5	5.1
百貨店	2.8	2.5	3.2	6.1
スーパー	0.1	3.8	3.7	4.5
乗用車	1.1	5.9	1.4	7.8
景気ウォッチャー	40.0	41.1	36.1	37.4

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

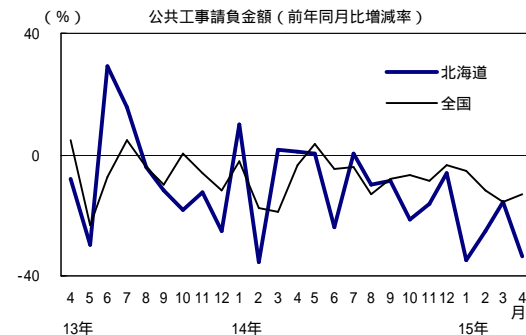
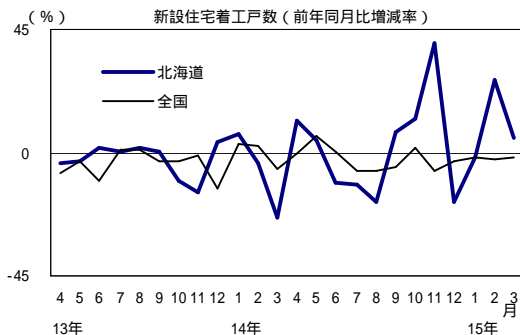
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断DIの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は増加している。

貸家、分譲が前年を上回っており、全体でも増加している。

(3) 公共投資は14年度累計で見ると13年度を下回っている。

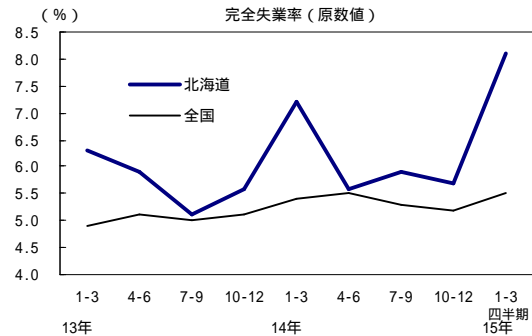
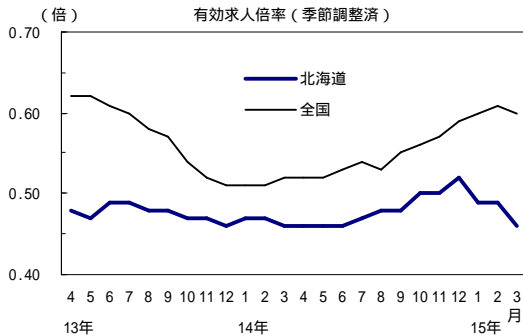


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しさを増している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回り、高い水準にある。



景気ウォッチャー調査(4月調査)[雇用関連(現状判断)]

「パートや臨時職員の求人は増えているが、正社員の求人は少なく、事業主都合の退職者も増加している(職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

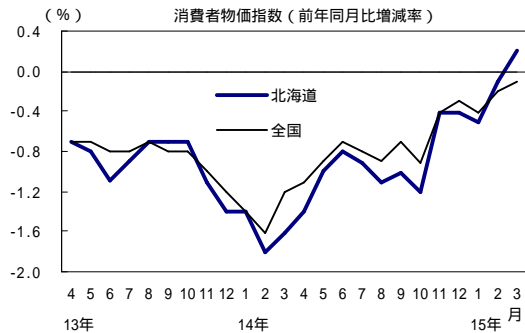
(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに増加している。

4月に負債総額が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	14年4-6月	7-9月	10-12月	15年1-3月	15年4月
倒産件数	186	182	151	214	73
(前年比)	2.6	10.8	25.6	6.5	15.9
負債総額	596	448	1,026	1,105	1,050
(前年比)	84.5	55.1	66.0	24.6	438.0



景気ウォッチャー調査(4月調査)[合計DI(特徴的な判断理由)]

<現状>

・建設業では20%くらいのマイナス、逆に医療・介護系や小売業では大きな伸びを示しているなど、業種的にはかなりの片寄りがある(求人情報誌製作会社)

<先行き>

・DVDレコーダー、デジタルカメラ、次世代携帯電話などのデジタル家電が好調に伸びており、全体として夏季商戦時には盛り返すと思われる(家電量販店)

